



チーフストラテジスト 瀧山裕二の Weekly Letter

第64回「IMF 世界経済見通し 2025年4月」

- IMF（国際通貨基金）は4月22日に「2025年4月 世界経済見通し」を公表しました。
- 今回の予測は4月4日までに米国が発表した関税と他国による対抗措置を勘案して予測している点で注目されます。今週のウィークリーレターでは、第2次トランプ政権発足後、初めて公的機関によって発表された経済予測、IMFの「世界経済見通し」についてお伝えします。

～世界経済の成長率予測～

- まず、発表された「世界経済見通し（2025年4月）」の内容を確認しましょう。裏面表1をご覧ください。この表は今回の見通しを抜粋したものです。米国トランプ政権の世界への高関税政策によって、世界各国の成長率予測は一律に引き下げられました。

- 世界経済全体の成長率予測は、2025年は+2.8%、2026年は+3.0%となり、前回予測と比べて25年で▲0.5%ポイント（▲はマイナス）、26年で▲0.3%ポイント下方修正されました。4月4日までに第2次トランプ政権が発動した関税政策の悪影響を考慮した数値となっています。

～主要国・地域の経済成長率予測～

- では、主要国・地域の成長率予測を見てみましょう。まず、米国ですが、25年の成長率は+1.8%、26年は+1.7%と予測されています。前回の予測と比べて25年が▲0.9%ポイントの下方修正、26年が▲0.4%ポイントの下方修正となりました。この米国の下方修正は、関税政策など不確実性の高まりによる悪影響を勘案したものであり、今年の下方修正幅▲0.9%ポイントのうち▲0.4%ポイント、また来年の下方修正幅▲0.4%ポイントのうち▲0.3ポイントが関税による下方修正と予測しています。また、米国の今年のインフレ予測（物価上昇予測）を2%から約1%ポイント引き上げ3%程度と予測しています。

- 一方、米国と激しい関税戦争を行っている中国について成長率予測を確認してみましょう。25年、26年の成長率予測はともに+4.0%となっています。前回予測と比べて25年は▲0.6%ポイントの下方修正、26年は▲0.5%ポイントの下方修正となりました。米国の高関税政策によって中国製品に対する米国での需要が落ち込み、中国国内でのデフレ圧力が高進するため成長率予測を引き下げています。この下方修正幅の内訳ですが、25年については関税政策による影響は▲1.2%ポイントですが、中国政府の財政政策などによる景気浮揚策で下方修正幅は▲0.6%まで縮小されました。26年の関税による影響は下方修正幅▲0.5%ポイントのうち▲0.3%ポイントと予測しています。

次にユーロ圏（EU）ですが、25年の成長率予測は+0.8%、26年は+1.2%となっています。前回予測と比べて、それぞれ▲0.2%ポイント下方修正されています。下方修正幅が小幅になった要因は、ユーロ圏に対する関税率が相対的に低い税率となっていることや、ロシアの脅威に対する防衛力強化やインフラ投資の拡充などの財政刺激策が経済減速の下支えになることが挙げられます。

日本については、25年、26年の成長率予測はともに+0.6%となっています。前回予測と比べ25年は▲0.5%ポイント、26年は▲0.2%ポイント下方修正されました。日本の輸出の主要な部分を占める自動車・同部品に対する関税が25%に設定されたことが下方修正幅を大きくしています。

インドについては、成長率予測は25年が+6.2%、26年が+6.3%となっています。それぞれ下方修正幅は、25年が▲0.3%ポイント、26年が▲0.2%ポイントと比較的小さくなっています。

ブラジルについては、成長率予測は25年、26年ともに+2.0%となっています。前回予測と比べて25年、26年ともに▲0.2%ポイント下方修正されています。関税率が相対的に低いことが軽微な修正となった要因です。

今回の見通しの中で、IMFチーフエコノミストのピエール・オリビエ・グランシャ氏は、「米国政府の新たな関税政策によって世界は不確実性と予測不可能性に覆われており、これらの複雑さと流動性を前提に今回の世界経済予測を行った」と表明するとともに、今後、「世界の緊密な供給体制は、関税の影響と不確実性をさらに増幅する可能性」があり、企業の投資行動の抑制や金融機関の与信低下も想定しています。このようなリスクを回避するためには、各国の貿易に関する新たな合意形成や各国の国内での不均衡への対処が重要であると述べています。

今後、米国も含めた新たな貿易ルールが策定されるのか、各国が国内問題に対処し不確実性を低減するような動きになるのかに注目して参ります。

表1

世界経済見通し(WEO)による成長率予測 (%)			
地域・国名	2024年	2025年(予測)	2026年(予測)
世界	3.3(+0.1)	2.8(-0.5)	3.0(-0.3)
先進国・地域	1.8(+0.1)	1.4(-0.5)	1.5(-0.3)
米国	2.8(0.0)	1.8(-0.9)	1.7(-0.4)
ユーロ圏	0.9(+0.1)	0.8(-0.2)	1.2(-0.2)
日本	0.1(+0.3)	0.6(-0.5)	0.6(-0.2)
新興市場国・発展途上国	4.3(+0.1)	3.7(-0.5)	3.9(-0.4)
中国	5.0(+0.2)	4.0(-0.6)	4.0(-0.5)
インド	6.5(0.0)	6.2(-0.3)	6.3(-0.2)
ブラジル	3.4(-0.3)	2.0(-0.2)	2.0(-0.2)

(注)インドについてはデータと予測が財政年度ベース(4月～翌年3月)で表示

※2025、2026年は予測値。
 カッコ内は前回(2025年1月)からの改定幅(%ポイント)
 (国際通貨基金 2025年4月「世界経済見通し」参照)

(西村証券 作成)